

研究ノート

アメリカの国際観光 — 国境を越える人の往来移動 —

浅羽 良昌

U.S. International Tourism

Yoshimasa Asaba

1. はじめに

アメリカの国際観光の特徴は、国際観光客到着数についてはフランスに遠くおよばないものの、訪米外国人観光客がアメリカ国内で消費・支出する金額、すなわち観光輸出額が圧倒的に大きいところにある。しかも、アメリカ人（現実にはアメリカ人と、1年以上のアメリカにおける居住者をさし、アメリカ国籍以外の人々も含む。以下、表記上アメリカ人と統一することにする）の観光客が、海外旅行で消費・支出する金額、すなわち観光輸入額は意外と伸びず、観光収支の黒字幅が第2位のスペインを大幅に上廻って断然トップに位置しているところにある。

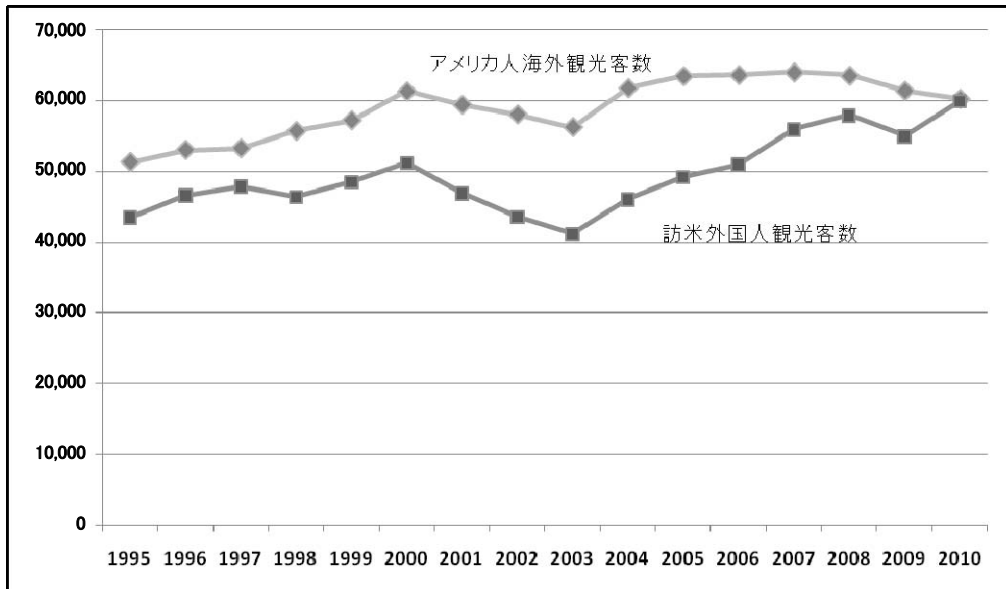
こうした特徴をもったアメリカの国際観光を側面より支えるのは、訪米外国人観光客数とあわせアメリカ人海外観光客数の状況にあるが、これらの実態を地域別はもとより国別ベース、とりわけ国別ベースに焦点をあてて検討しようとするのが、本ノートの課題である。言い換えれば、アメリカを訪れる人々の地域・国はどこか、アメリカ人はどこの地域・国を主に訪れているか、このことを明らかにすることが、本ノートの唯一の目的であり、それ以外の意図はない。

2. 地域別・国別訪米外国人観光客数の動向

この章の課題に応える前にあらかじめ、訪米外国人観光客数とアメリカ人海外観光客数の全体の推移をまずはみておこう。図1をみていただきたい。1995年からの動向を示してみたが、

図1 訪米外国人観光客数・アメリカ人海外観光客数 (1995-2010年)

(単位: 1,000人)



(出所) U. S. Department of Commerce, *Survey of Current Business*, June, 2011 より作成。

アメリカ人海外観光客数が一貫して訪米外国人観光客数を上廻っていることが判明する。ただし、その差は1995年にはおよそ800万人、ピーク時の2003年には1,500万人に達していたものが、2009年から2010年にかけて急接近し、33万人へと縮小している。アメリカ人海外観光客数が2007年をピークに減少の一途を辿っているのに対し、訪米外国人観光客数が2003年をボトムに2009年を除き拡大に傾斜していることが、こうした結果に反映しているといえよう。2009年の訪米外国人観光客数の一時的な減少は、前年に勃発したリーマンショックに端を発した経済大不況の影響である。なお、脱稿後入手したデータによると、2011年には訪米外国人観光客数がさらに伸びる一方、アメリカ人海外観光客数が減少して逆転し、前者が後者を383万人ほど上廻っている。調査しえた範囲にあってはこうして事態ははじめてのことであり、今後、いかなる方向に進むかは予断を許さないが、こうした事実を確認しておきたい。

次頁に示した表1は地域別訪米外国人観光客数を2000年と2010年とにわけて記載してみた。北アメリカを構成するカナダとメキシコの数値だけは特別に記してみた。圧倒的に大きなウェ

イトをしめているからである。

表1 地域別訪米外国人観光客数（2000年、2010年）

（単位：人）

地域	2000年	%	2010年	%	変化率（%） 2000/2010
北アメリカ	25,262,000	49.4	33,430,000	55.9	32
カナダ	14,666,000	28.7	19,961,000	33.4	36
メキシコ	10,596,000	20.7	13,469,000	22.5	27
西ヨーロッパ	11,175,161	21.8	11,378,769	19.1	2
アジア	7,554,444	14.7	7,019,502	11.8	-7
南アメリカ	2,941,471	5.7	3,250,298	5.4	10
カリビアン	1,331,297	2.6	1,200,740	2.0	-10
オセアニア	731,263	1.4	1,095,252	1.8	5
中央アメリカ	821,614	1.6	760,441	1.3	-7
中近東	702,105	1.4	735,549	1.2	5
東ヨーロッパ	421,959	0.8	606,422	1.0	44
アフリカ	295,387	0.6	315,645	0.5	7
合計	51,236,701	100.0	59,792,616	100.0	17

（出所）図1と同一。2011より作成。

2000年にあつて過半に迫っている北アメリカをトップに、西ヨーロッパとアジアが続いている。4位の南アメリカ以下は、そのウェイトは限りなく小さい。2010年にあつても順位はほとんど変わらないが、北アメリカの比重がさらに大きくなる一方、西ヨーロッパとアジアの比重は逆に低下している。カナダとメキシコ両国からの訪米観光客数が益々増大傾向にあることがうかがえる。一極集中がさらに進むものかどうか、西ヨーロッパとアジアからの訪問客数が増えるものかどうか、とりわけアジアの場合にあつては、中国やインドからの訪米観光客数の動向いかんと言ったところかもしれない。4位以下にあつては、ブラジルを代表とする南アメリカの行方が注目されるが、それ以外の地域のウェイトは余りにも小さい。所得水準の低さや人口数、さらには地理的条件などが関係しているはずである。

次頁に掲載した表2は各国別の訪米外国人観光客数を示したものである。2010年のランキング順に並べてみた。2000年、2010年ともどもトップはカナダ、2位はメキシコとなっており、ウェイトも両国が圧倒的に大きい。カナダは3割を、メキシコは2割をそれぞれ上廻っており、しかも伸び率も大きい。両国の観光客が、アメリカにとっての最大のお客様であることは疑いえない。

3位と4位につけているイギリスと日本、とりわけ日本はおよそ170万人ほどが減少し、ランクも3位から4位へと後退している。イギリスもまた85万人程が減少しているが、減少幅が日本よりも小さいため、ランクを一つ上げているにすぎない。ただし、2010年時点における5位のドイツの比率2.9%と較べれば、依然として6.4%、5.7%を維持しており、その存在感は無視しえないものがある。西ヨーロッパにあつてはイギリスの、アジアにあつては日本のア

表2 各国別訪米外国人観光客数 (2000年、2010年)

(単位：人)

2010年 ランキング	国	2000年	%	2010年	%	変化率 (%) 2000/2010
1	カナダ	14,666,000	28.7	19,961,000	33.4	36
2	メキシコ	10,596,000	20.7	13,469,000	22.5	27
3	イギリス	4,703,008	9.2	3,850,864	6.4	-18
4	日本	5,061,377	9.9	3,386,076	5.7	-33
5	ドイツ	1,786,045	3.5	1,726,193	2.9	-3
6	フランス	1,087,087	2.1	1,342,207	2.2	23
7	ブラジル	737,245	1.4	1,197,866	2.0	62
8	韓国	661,844	1.3	1,107,518	1.9	67
9	オーストラリア	539,559	1.1	904,247	1.5	68
10	イタリア	612,357	1.2	838,225	1.4	37
11	中国	249,441	0.5	801,738	1.3	221
12	インド	274,202	0.6	650,935	1.1	137
13	スペイン	361,177	0.7	639,654	1.1	77
14	オランダ	553,297	1.1	570,109	1.0	3
15	コロンビア	417,065	0.8	494,739	0.8	19
21	イスラエル	325,199	0.6	306,914	0.5	-6
22	台湾	457,302	0.9	291,107	0.5	-36
26	ドミニカ共和国	197,298	0.4	239,972	0.4	22
30	ジャマイカ	242,903	0.5	178,791	0.3	-26
33	ロシア	76,739	0.1	174,511	0.3	127
38	シンガポール	136,439	0.3	139,319	0.2	2
40	ホンコン	203,300	0.4	131,712	0.2	-35
	合計	51,236,701	-	59,792,616	-	17

(出所) 図1と同一。

メリカ人気は他の諸国と比較し底堅く、根強いことがうかがえる。

ランキング7位、8位、9位につけているブラジル、韓国、オーストラリアの上昇率の大きさは、比率自体は依然として小さいながらも注目しておきたい。13位のスペインも類似の傾向を示している。

なお、伸び率221%の中国、137%のインドはブラジルとともに、今後の行方に注意を向けてみたい。ロシアも高い伸び率を示しているが、訪米観光客数は極端に少なく、ウクライナやトルコやエジプトや中国へ向かっているロシア人の様相が垣間見える。ロシアの人々にとっては、アメリカは遠くてやはり遠い国と言ったところであろう。ちなみに、ロシア人は2010年にはウクライナへは790万人、トルコへは309万人、エジプトへは286万人そして中国へは237万人が訪れている。

それでは、次頁の表3によって、主要8カ国の2000年から2010年に至る経緯・推移を3つのグループにわけてながめてみよう。

アメリカの国際観光

表3 主要各国別訪米外国人観光客数（2000－2010年）

（単位：1,000人）

国	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
カナダ	14,666	13,507	13,021	12,666	13,857	14,862	15,992	17,760	18,910	17,973	19,961
メキシコ	10,596	11,567	11,440	10,526	11,907	12,665	13,317	14,327	13,686	13,229	13,469
イギリス	4,703	4,097	3,817	3,936	4,303	4,345	4,176	4,498	4,564	3,899	3,851
日本	5,061	4,083	3,627	3,169	3,748	3,884	3,673	3,531	3,250	2,918	3,386
ブラジル	737	551	405	349	385	485	525	639	769	893	1,198
韓国	662	618	639	618	627	705	758	806	759	744	1,108
中国	249	232	226	157	203	270	320	397	493	525	801
インド	274	270	257	272	309	345	407	567	599	549	651

（出所）図1と同一。2009, 2010より作成。

カナダとメキシコにあっては、訪米観光客数は一貫してカナダ人がメキシコ人を上回っている。カナダ人のアメリカ観光旅行の人気は、すさまじいものがある。2001年から2004年にかけて、両国における訪問観光客数の差が一旦は200万人前後へと縮小するものの、2005年以降格差が次第に広がり、2010年には650万人ほどに拡大している。今後こうしたトレンドが継続するものかどうか、一概には断定できないが、メキシコ経済の動向にも大きくかかわっているはずである。景気がよくなれば、当然のごとくメキシコ人の訪米観光客数は増加傾向を辿るに違いない。

なお、後述することであるが、アメリカ人の両国への旅行人気は、逆にメキシコがカナダを圧倒している。物価が安く暖かいメキシコへ向かっているアメリカ人の姿がみえてくるが、あわせてメキシコ系アメリカ人の里帰りがこうした傾向に拍車をかけていると思われる。

イギリスと日本にあっては、2000年にあってともに訪米観光客数のピークを迎えているが、2001年の同時多発テロ事件を契機にイギリスの場合は2002年まで、日本の場合は2003年まで減少している。とくに日本にあっては、長期にわたる景気低迷・停滞ともあいまって安くて近いアジア、とりわけ中国への旅行が急速に増加し、2007年には太平洋上に浮かぶハワイ州やグアムを含めたアメリカを抜いて、日本人の旅行先トップは中国となっている。日本人のアメリカ観光人気にはかつての勢いが無い。

2000年にあって、日本がイギリスを上廻っていたことは、今や過去のこととなり、2001年以降は一貫して訪米イギリス人観光客数が訪米日本人観光客数を上廻っている。ただ、イギリスにあっては、2000年のピークの数値にはこの10年間一度も達しておらず、カナダやメキシコ両国からの訪米観光客数が現在、2000年の数値を大幅に上廻っていることと照しあわせれば、イギリスと日本はともにウェイトを縮小へと傾いている。

ブラジル、韓国、中国、インドのグループにあっては、ブラジルは2003年をボトムに一貫して増大傾向にあるが、韓国と中国もまたほぼ近似のトレンドに傾斜している。インドは前年の2002年をボトムに、これら3カ国と比較し、数値は低いながらも同じく拡大基調を辿っており、これら4カ国のうち、どの国が何年後にイギリスや日本の水準に近づくものか、とりわけ中国やブラジルからの訪米旅行者数がどの程度の伸びを示すものか、目が離せない。

3. 地域別・国別アメリカ人海外観光客数の動向

表4は地域別アメリカ人海外観光客数を示したものである。2000年と2010年の数値を並べてみたが、トータルとしては、2000年と比較し2010年にはおよそ100万人ほどが減少している。北アメリカの項目にカナダとメキシコのみを追加してみた。両国へ余りにも集中しているからである。

表4 地域別アメリカ人海外観光客数 (2000年、2010年)

(単位: 1,000人)

地域	2000年	%	2010年	%	変化率 (%) 2000/2010
北アメリカ	34,474	56.2	31,761	52.7	-8
メキシコ	19,285	31.4	20,012	33.2	4
カナダ	15,189	24.7	11,749	19.5	-23
西ヨーロッパ	12,916	21.0	9,179	15.2	-29
カリビアン	3,867	6.3	6,186	10.2	60
アジア	4,914	8.0	5,616	9.3	14
南アメリカ	2,095	3.4	2,395	3.9	14
中央アメリカ	886	1.4	1,910	3.1	116
中近東	1,370	2.2	1,824	3.0	33
東ヨーロッパ	806	1.3	1,112	1.8	40
アフリカ	483	0.7	969	1.6	101
オセアニア	1,047	1.7	599	1.0	-43
合計	61,327	102.2*	60,268	101.8*	-2

(出所) 図1と同一。2010, 2011より作成。

※ 100%にならない。

2000年にあつては、過半を上廻っている北アメリカをトップに、西ヨーロッパ、アジア、カリビアンが続いている。カリビアンとはドミニカ共和国とジャマイカなどから構成されている地域をさす。南アメリカ以下のウェイトは極端に小さい。西ヨーロッパへのウェイトが2割を上廻っているのに対し、アジアへのウェイトは依然として1割に達していない。アメリカ人の西ヨーロッパ人気うかがえる。

2010年にあつては、2000年と較べ、海外観光客数が若干減少している中であつて、北アメリカのウェイトもまた若干減少しているが、それはもっぱらカナダへの旅行者数が減っていることによる。西ヨーロッパへの減少幅もまたおよそ3割に達しているが、比較的近いカリビアンへの訪問は伸びている。最も伸び率の高いのが中央アメリカであることを考えると、お金をあまり使わずに、遠距離よりも近距離の旅行地を選ぶ傾向の一端がこんなところにもみえてくる。

アジアへのウェイトはわずかに増加しているとはいえ、その他の地域にあつては大きな変化はみられない。南アメリカ以下のウェイトは依然として小さく、北アメリカ、西ヨーロッパ、

アメリカの国際観光

カリビアンそしてアジアの4地域で全体の87%に達している。カリビアンとならびアジアへの訪問観光客数が今後どの程度伸びるものかどうか、カナダやメキシコへの動向とともに注目される。

表5は2000年と2010年における各国別のアメリカ人海外観光客数を示したものである。2010年のランキング順に並べてみた。なお、この間トータルとしては、既述したことであるが、およそ100万人程が減少している。アメリカ人の海外観光客数は増加していないことに改めて注意しておきたい。

表5 各国別アメリカ人海外観光客数（2000年、2010年）

（単位：1,000人）

2010年 ランキング	国	2000年	%	2010年	%	変化率 (%) 2000/2010
1	メキシコ	19,285	31.4	20,012	33.2	4
2	カナダ	15,189	24.7	11,749	19.5	-23
3	イギリス	4,189	6.8	2,366	3.9	-44
4	ドミニカ共和国	※	—	1,796	3.0	—
5	フランス	2,927	4.8	1,739	2.9	-41
5	イタリア	2,148	3.5	1,739	2.9	-19
5	ドイツ	2,309	3.8	1,739	2.9	-25
8	ジャマイカ	886	1.4	1,482	2.5	67
9	中国	644	1.1	1,254	2.1	95
10	日本	1,262	2.1	1,197	2.0	-5
11	スペイン	1,262	2.1	969	1.6	-23
12	インド	457	0.7	770	1.3	68
13	ホンコン	832	1.4	713	1.2	-14
14	オランダ	1,101	1.8	684	1.1	-38
14	イスラエル	618	1.0	684	1.1	11
17	韓国	779	1.3	599	1.0	-23
19	ブラジル	671	1.1	513	0.9	-24
19	台湾	671	1.1	513	0.9	-24
19	コロンビア	242	0.4	513	0.9	112
23	オーストラリア	698	1.1	485	0.8	-31
32	ロシア	134	0.2	257	0.4	92
34	シンガポール	457	0.7	200	0.3	-56
	合計	61,327	—	60,268	—	-2

（出所）図1と同一。※はデータがない。

2000年、2010年ともどもトップはメキシコ、2位はカナダとなっており、その数値もウェイトも断然他国を圧倒している。ただし、メキシコへはほぼ横バイなのに対し、カナダへの観光客数は大幅に減少している。カナダ旅行の人気の低迷・停滞がどのあたりにあるのかはにわかには判断しかねるが、およそ350万人弱が減っている。後述することであるが、カナダ・ドル

に対するアメリカ・ドル安の影響もかかわっているはずである。

3位、5位、6位、7位につけているイギリス、フランス、イタリア、ドイツ、さらに11位のスペイン、14位のオランダへの観光客数も減少している。景気後退ともあいまって西ヨーロッパへの海外旅行が控えられていることがみえてくる。なかでもイギリスとフランスへの旅行がかなり減少している。減少幅は4割を上回っている。

反面、4位のドミニカ共和国や8位のジャマイカならび9位の中国への観光客数は大きく伸びている。中国への伸びは、ビジネス旅行とあわせ中国の豊かな歴史的文化遺産の魅力とともに、物価水準の低さも関係しているに違いない。ドミニカ共和国やジャマイカへの増加は、近くて安い海外旅行へと向かった結果と思われる。

日本への観光客数がほぼ横バイなのに対し、インドへは増加しているが、その数はまだ少ない。ホンコン、韓国、ブラジル、台湾、オーストラリア、シンガポールへの観光客数が減少している中で、イスラエル、コロンビア、ロシア、とりわけコロンビアへの旅行者数がかなり増加しているのが注目される。すでに述べたことであるが、ブラジル人の訪米観光客数が大幅に増加しているのと対照的に、アメリカ人のブラジル旅行人気は高まっていないのは、日米間の旅行人気の格差と似たような状況といえようか。ちなみに、後段において明らかにするが、日本人の訪米観光客数339万人に対し、アメリカ人の訪日観光客数は120万人にも満たない。ブラジルのケースでは、120万人に対し、51万人にすぎない。

それでは、次に表6によって、11カ国のアメリカ人海外観光客数の2000年から2010年に至る迄の経緯・推移を3つのグループに分けてながめてみよう。

表6 主要各国別アメリカ人海外観光客数 (2000-2010年)

(単位: 1,000人)

国	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
メキシコ	19,285	18,623	18,501	17,566	19,370	20,325	19,659	19,425	20,271	19,452	20,012
カナダ	15,189	15,570	16,167	14,232	15,088	14,391	13,855	13,375	12,504	11,667	11,749
イギリス	4,189	3,383	3,229	3,252	3,692	3,829	3,286	3,123	2,894	2,727	2,366
フランス	2,927	2,626	2,223	1,883	2,407	2,217	2,231	2,217	2,124	1,909	1,739
イタリア	2,148	1,944	1,661	1,638	1,915	2,044	2,201	2,373	1,940	1,848	1,739
ドイツ	2,309	1,894	1,591	1,540	1,750	1,670	1,688	1,936	1,601	1,545	1,739
ジャマイカ	886	1,313	983	1,492	1,258	1,353	1,688	1,530	1,447	1,424	1,482
中国	644	682	725	562	1,067	1,295	1,327	1,374	1,201	1,182	1,254
日本	1,262	1,062	1,287	1,051	1,067	1,497	1,538	1,718	1,601	1,515	1,197
インド	457	454	398	416	629	835	904	999	1,016	1,061	770
韓国	779	530	608	513	574	662	633	687	616	667	599

(出所) 図1と同一。2010, 2011より作成。

メキシコとカナダにあつては、一貫してメキシコへの訪問者数がカナダへの訪問者数を上回っている。最も接近したのは2002年のことで、およそ233万人程度となったが、それ以降次第に拡大し、2010年にはおよそ826万人となっている。メキシコ系アメリカ人の里帰り旅行

の増加とあわせ、避寒目的で温暖な南国のリゾート地でメキシコ旅行も満喫しているアメリカ人の姿が浮かんでくる。物価の安さもあり、比較的長期滞在も可能とするメキシコ旅行は、カナダ旅行よりも人気が高い。まして 2007 年以降カナダ・ドルがアメリカ・ドルに対し等価水準に達したことも、カナダ旅行への人気が低下した要因となっている。ドル安・カナダ・ドル高の影響である。

イギリス、フランス、イタリア、ドイツそしてジャマイカのグループにあつては、ヨーロッパ 4 カ国へは 2000 年から 2003 年にかけて大幅に減少し、2003 年にはボトムを経験している。その後ジグザグな数値を示しながら、2010 年にはドイツを除き減少へと傾いている。それに対しジャマイカへは 2002 年にボトム、2006 年にピークを迎えるも、2000 年と比較し 2010 年には 67% の大幅な伸びを示している。ジャマイカはドミニカ共和国とともに、今後アメリカからの観光客が訪れる人気スポットになる可能性を限りなく秘めている。安くて近い、長期滞在リゾート地の一角を両国がしめることは十分に首肯できる。

中国、日本、インド、韓国の 4 カ国にあつては、中国とインドは全体として観光客数が着実に増加しているのに対し、日本はほぼ横バイ、韓国はむしろ減少トレンドを示している。その中であつて、中国への伸びの顕著なことがとりわけ特筆される。なお、インドを除く 3 カ国におけるボトムは 2003 年、ピークは 2007 年、インドのボトムは 2002 年、ピークは 2008 年となっている。ボトムの時期は 2001 年の同時多発テロ事件の後遺症によるもので、ピークの時期は 2008 年に勃発したリーマンショックの影響があらわれる直前の好景気を反映した数値であろう。こうした傾向は、アメリカ人のいずれの国への海外旅行者数全般にもみられる状況である。

4. 地域別・国別観光客数の相互移動の動向

次頁に示した表 7 は地域別訪米外国人観光客数・アメリカ人海外観光客数を 2000 年と 2010 年とにわけて記載した。どの地域からどの程度の観光客数がアメリカを訪れ、アメリカからどの程度の観光客数がどの地域を訪問しているか、さらにはそのバランスが判明できるように整理してみた。

項目 2 と 3 の説明からもおよそ判断していただけたと思うが、この表により観光客の相互移動の実態がより一層鮮明になってくるはずである。ここではバランスに焦点をあてて検討してみたい。バランスのマイナスの数値が大きければ大きいほど、訪米外国人観光客数よりもアメリカ人海外観光客数の多いことを示している。反面、プラスの数値が大きいかほどアメリカ人海外観光客数よりも訪米外国人観光客数の多いことを映し出している。アメリカ側からみれば、プラスであればあるほど、その地域は正味の貢献者であり、お客様、お得意様と言ったところである。

表7 地域別訪米外国人観光客数・アメリカ人海外観光客数 (2000年、2010年)

(単位: 1,000人)

地域	2000年			2010年		
	訪米外国人 観光客数 (A)	アメリカ人 海外観光客数 (B)	バランス (A) - (B)	訪米外国人 観光客数 (A)	アメリカ人 海外観光客数 (B)	バランス (A) - (B)
北アメリカ	25,262	34,474	-9,212	33,430	31,761	1,669
カナダ	14,666	15,189	-523	19,961	11,749	8,212
メキシコ	10,596	19,285	-8,689	13,469	20,012	-6,543
西ヨーロッパ	11,175	12,916	-1,741	11,378	9,179	2,199
アジア	7,554	4,914	2,640	7,020	5,616	1,404
南アメリカ	2,941	2,095	846	3,250	2,395	855
カリビアン	1,331	3,867	-2,536	1,201	6,186	-4,985
オセアニア	731	1,047	-316	1,095	599	496
中央アメリカ	822	886	-64	760	1,910	-1,150
中近東	702	1,370	-668	736	1,824	-1,088
東ヨーロッパ	422	806	-384	606	1,112	-506
アフリカ	295	483	-188	316	969	-653
合計	51,237	61,327	-10,090	59,793	60,268	-475

(出所) 表1と表4より作成。

2000年にあつては、そのプラスの地域はアジアと南アメリカの2地域にしかすぎず、しかも南アメリカにあつてはその数値は極りなく小さい。反面、残りの8地域はいずれもマイナスとなつており、アメリカ人海外観光客数が訪米外国人観光客数を上廻っている。北アメリカのマイナスの数値の一際大きいことが目につくが、その圧倒的大部分はメキシコとの関係から生じている。カナダ人はアメリカにとっての最大のお得意様であるが、他方アメリカ人のメキシコ観光人気の高さが、こうした数値をもたらしている。

西ヨーロッパは、北アメリカに次いで双方の数値がともに大きい、アメリカ人海外観光客数が若干多いことにより、マイナスになっている。カリビアンはマイナスの数値は、北アメリカに次いで大きい、それはこれらの地域からの訪米観光客数よりもアメリカ人のこれらの地域への観光客数が多いことによる。アメリカ人旅行者にとって、この地域の人気の高さがうかがえるとともに、これらの地域の所得水準の低さが訪米観光客数の少なさに直結している。

マイナスを示しているその他の地域にあつては、いずれも小さいが、その中で中近東のマイナスは、大部分がイスラエルとの関係から発生している。ユダヤ系アメリカ人のイスラエル訪問が特に寄与していると思われる。

2010年にあつては、大きな様変わりを見せている。マイナスを示している地域が8から5へと減少していることからうかがえる。2000年にあつては、最も大きなマイナスを示していた北アメリカがプラスになる一方、西ヨーロッパも同じくプラスへ転じている。

北アメリカにあつてはカナダの大幅なプラスが大きく貢献しているが、その内容は、カナダ人の訪米観光客数が大幅に伸びる一方、アメリカ人のカナダ旅行の減少による。メキシコとの関係では若干減少したとはいえ、依然として大幅なマイナスを示している。アメリカ人にとつ

アメリカの国際観光

てメキシコは断トツの第1の人気観光地に違いない。

西ヨーロッパにおけるプラスは、もっぱらアメリカ人の西ヨーロッパへの旅行者の減少によるものである。リーマンショックによる後遺症が、カナダとともにこの地域への観光客の減少へと如実に反映した感がある。

マイナス幅が一層大きくなったのはカリビアン地域であるが、それはアメリカ人のカリビアンへの旅行者の増大によるものである。カナダや西ヨーロッパにおける減少が、このカリビアンへの増加へと転じたようにもみえる。中央アメリカもほぼ類似の様相を呈している。新たな避寒地域としての台頭がマイナス幅の増大として表れている。

その他の地域にあっては、2000年と比較し大きな変化はみられないが、オセアニアのマイナスからプラスへの転化が注目される。オーストラリアからのアメリカへの観光客数の増加とあわせ、アメリカからのオーストラリアへの観光客数の減少とが重なって、この数値に反映している。

表8は各国別訪米外国人観光客数・アメリカ人海外観光客数を2000年と2010年とについて示してみた。2000年におけるトータルのバランスはマイナスであるが、その86%がメキシコによるものである。以下、フランス、イタリア、スペインをはじめとする西ヨーロッパ諸国が続いている。オランダやドイツもこの分類に属している。ジャマイカ、カナダ、ホンコン、中国、シンガポール、イスラエル、台湾、インド、オーストラリア、韓国などもマイナスであり、アメリカ人の観光客数がこれらの国々からの訪米観光客数を上廻っていることを示している。世界の至る所にアメリカ人が旅行している実態が看取できる。

表8 各国別訪米外国人観光客数・アメリカ人海外観光客数 (2000年、2010年)

(単位：1,000人)

2010年 ランキング	国	2000年			2010年		
		訪米外国人 観光客数 (A)	アメリカ人 海外観光客数 (B)	バランス (A) - (B)	訪米外国人 観光客数 (A)	アメリカ人 海外観光客数 (B)	バランス (A) - (B)
1	カナダ	14,666	15,189	-523	19,961	11,749	8,212
2	メキシコ	10,596	19,285	-8,689	13,469	20,012	-6,543
3	イギリス	4,703	4,189	514	3,851	2,366	1,485
4	日本	5,061	1,262	3,799	3,386	1,197	2,189
5	ドイツ	1,786	2,309	-523	1,726	1,739	-13
6	フランス	1,087	2,927	-1,840	1,342	1,739	-397
7	ブラジル	737	671	66	1,198	513	685
8	韓国	662	779	-117	1,108	599	509
9	オーストラリア	540	698	-158	904	485	419
10	イタリア	612	2,148	-1,536	838	1,739	-901
11	中国	249	644	-395	802	1,254	-452
12	インド	274	457	-183	651	770	-119
13	スペイン	361	1,262	-901	640	969	-329
14	オランダ	553	1,101	-548	570	684	-114
15	コロンビア	417	242	175	495	513	-18

21	イスラエル	325	618	-293	307	684	-377
22	台湾	457	671	-214	291	513	-222
26	ドミニカ共和国	197	—	—	240	1,796	-1,556
30	ジャマイカ	243	886	-643	179	1,482	-1,303
33	ロシア	77	134	-57	175	257	-82
38	シンガポール	136	457	-321	139	200	-61
40	ホンコン	203	832	-629	132	713	-581
	合計	51,237	61,327	-10,090	59,793	60,268	-475

(出所) 表2と表5より作成。ランキングの順位は2010年の訪米外国人観光客数の多い順に並べてみた。

これに対し、プラスになっている国は余りにも少ない。日本、イギリス、コロンビア、ブラジルにすぎず、そのうち日本が圧倒的に大きな数値を表示している。アメリカ人は日本をそれほど訪れないのにもかかわらず、日本人のアメリカ旅行人気はすさまじいということである。

イギリスのプラスの数値は大きくはないが、西ヨーロッパの他の諸国がいずれもマイナスなのに鑑みると、イギリスのアメリカ旅行人気も際立っているに違いない。

2010年に目を移すと、トータルでは依然としてマイナスであるとはいえ、その数値はほぼ均等に近くなっている。既述したことであるが、訪米外国人観光客数が増加する一方、アメリカ人海外観光客数がほぼ横バイを示しているためであるが、その原因はカナダとの関係にある。

カナダとのバランスが大幅なプラスに転化したことが、そのことを映し出している。カナダ人の訪米観光客数が大幅に伸びる一方、アメリカ人のカナダ観光客数の減少によるものであるが、その原因の一つは、すでに述べたように、カナダ・ドルがアメリカ・ドルに対し等価水準に達したことにある。日本、イギリス、ブラジル、韓国、オーストラリアもこのグループに入るが、前の2カ国と後の3カ国との間には、数値の大きさに差があることは確認しておきたい。なお、韓国とオーストラリアはマイナスからプラスへと転じている。

反面マイナス幅の大きい国の筆頭はメキシコであり、カナダと好対照をなしている。西ヨーロッパ諸国とは依然としてマイナスであるが、その数値が全般に小さくなっていることは注目しても良い。アメリカから西ヨーロッパへの観光客数の減少がその要因と言ったところである。これと対照的に、ドミニカ共和国とジャマイカとの関係では、マイナス幅が逆に増大している。アメリカ人観光客が両国へ訪れている傾向は明らかである。マイナスを示している他の諸国では、大きな変化はない。

次頁に示した表9は主要7カ国における訪米外国人観光客数・アメリカ人海外観光客数の2000年から2010年に至る迄の経緯・推移を3つのグループにわけて記してみた。

カナダとメキシコにあっては、カナダでは2005年を契機にマイナスからプラスへと大転換をとげ、しかもそのプラスの幅が年々大きくなっているのに対し、メキシコにあっては一貫して大幅なマイナスを記録している。カナダ経済の比較的順調な経過が、この表にも現れていると思われる。

イギリスと日本のケースでは、いずれもバランスがプラスであるが、日本の方がプラスの数値は大きい。アメリカ人の観光客数は、日本よりもやはりイギリスへの方がこの間一貫して多

アメリカの国際観光

表9 各国別訪米外国人観光客数・アメリカ人海外観光客数の推移（2000-2010年）

（単位：1,000人）

国		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
カナダ	訪米観光客数	14,666	13,507	13,021	12,666	13,857	14,862	15,992	17,760	18,910	17,973	19,961
	アメリカ人観光客数	15,189	15,570	16,167	14,232	15,088	14,391	13,855	13,375	12,504	11,667	11,749
	バランス	-523	-2,063	-3,146	-1,566	-1,231	471	2,137	4,385	6,406	6,306	8,212
メキシコ	訪米観光客数	10,596	11,567	11,440	10,526	11,907	12,665	13,317	14,327	13,686	13,229	13,469
	アメリカ人観光客数	19,285	18,623	18,501	17,566	19,370	20,325	19,659	19,425	20,271	19,452	20,012
	バランス	-8,689	-7,056	-7,061	-7,040	-7,463	-7,660	-6,342	-5,098	-6,585	-6,223	-6,543
イギリス	訪米観光客数	4,703	4,097	3,817	3,936	4,303	4,345	4,176	4,498	4,564	3,899	3,851
	アメリカ人観光客数	4,189	3,383	3,229	3,252	3,692	3,829	3,286	3,123	2,894	2,727	2,366
	バランス	514	714	588	684	611	516	890	1,375	1,670	1,172	1,485
日本	訪米観光客数	5,061	4,083	3,627	3,169	3,748	3,884	3,673	3,531	3,250	2,918	3,386
	アメリカ人観光客数	1,262	1,062	1,287	1,051	1,067	1,497	1,538	1,718	1,601	1,515	1,197
	バランス	3,799	3,021	2,340	2,118	2,681	2,387	2,135	1,813	1,649	1,403	2,189
イタリア	訪米観光客数	612	472	406	409	471	546	533	634	779	753	838
	アメリカ人観光客数	2,148	1,944	1,661	1,638	1,915	2,044	2,201	2,373	1,940	1,848	1,739
	バランス	-1,536	-1,472	-1,255	-1,229	-1,444	-1,498	-1,668	-1,739	-1,161	-1,095	-901
中国	訪米観光客数	249	232	226	157	203	270	320	397	493	525	802
	アメリカ人観光客数	644	682	725	562	1,067	1,295	1,327	1,374	1,201	1,182	1,254
	バランス	-395	-450	-499	-405	-864	-1,025	-1,007	-977	-708	-657	-452
ジャマイカ	訪米観光客数	243	229	184	159	163	175	205	221	205	186	179
	アメリカ人観光客数	886	1,313	983	1,492	1,258	1,353	1,688	1,530	1,447	1,424	1,482
	バランス	-643	-1,084	-799	-1,333	-1,095	-1,178	-1,483	-1,309	-1,242	-1,238	-1,303

（出所）図1と同一。2009, 2010, 2011より作成。

いことによる。アメリカ人にとって、イギリスは歴史的・民族的・文化的な関係からも、日本よりも人気の高い観光地である。

イタリア、中国、ジャマイカの3カ国にあつては、いずれもバランスはマイナスになっている。アメリカ人にとって、これらの国々は魅力的な、人気の高い国であることは間違いない。その中で、中国の場合、訪米中国人観光客数が大幅に伸びて、マイナス幅が減少し、いずれプラスになる可能性も秘めている。アメリカ人の訪中観光客数の増え方にもよるが、近い将来には起こりえることであろう。

ジャマイカはそのバランスの数値としては、2010年にはメキシコのほぼ5分の1程度であるとはいえ、メキシコそしてドミニカ共和国とともに、アメリカ人にとって安価で長期滞在可能な避寒リゾート地である。

イタリアのマイナスは、アメリカ人のイタリア観光旅行の人気の高さに対照的な、イタリア人のアメリカ観光人気の低さにある。イタリア人にとっての人気の旅行先は、2010年には1位フランス、2位スペイン、3位ドイツ、4位イギリス、5位エジプト、6位クロアチアとなっており、クロアチアでもアメリカへの観光客数約84万人に対し、それを上廻る約102万人に達している。フランスへの観光客数に至っては約717万人となっており、ヨーロッパ域内に集

中している。アメリカへの観光客数は徐々に伸びているとはいえ、プラスになることは今のところ考えにくい。

5. むすび

アメリカを訪れる観光客はどの地域・国が多いか、アメリカの観光客はどの地域・国を訪れているか、そしてそのバランスはどのようになっているか、過去 10 年ほどのデータを追いかけてみながらみてきた。

北アメリカ、とりわけカナダとメキシコとの相互訪問の多いことがわかったが、カナダはアメリカにとって最大のお客様である一方、メキシコはアメリカにとって最も人気の高い観光地である。カナダとのバランスは、したがって現在はアメリカ側のプラスであるのに対し、メキシコとのバランスでは逆にアメリカ側のマイナスになっている。

カナダのようにアメリカ側のプラスになっている地域・国は、アジアでは日本、ヨーロッパではイギリスがその代表と言ったところであり、両国ではいずれもアメリカへの観光人気は高い。

他方、メキシコのようにアメリカ側のマイナスになっている地域・国は、実は圧倒的に多く、アメリカの観光客が世界中の至る所へと旅行している実態をうらずけている。なお、トータルで言えば、アメリカ人の海外観光客数は横バイか減少方向に傾斜しているのと対照的に、訪米外国人観光客数は増大傾向を示し、そのバランスはほぼ均衡状態に近い。そして 2011 年のデータでは、後者が前者をはじめて上廻って逆転している。今後、この傾向がいかなる方向に進むものか、アメリカ経済はもとより世界経済の動向とも密接にかかわる、アメリカを含む各国の個人所得やドルの推移に注目していきたい。

参考文献

U.S.Department of Commerce, *Survey of Current Business*.

U.S.Department of Commerce, *Statistical Abstract of the United States*.

U.S.Department of Commerce, *U.S.Industry & Trade Outlook 2000*, The McGraw - Hill Companies, 2001.

U.S.Department of Commerce, ITA, *Office of Travel and Tourism Industries*.

浅羽良昌『アメリカ経済 200 年の興亡』東洋経済新報社、1996 年、2011 年。

浅羽良昌『国際観光論』昭和堂、2010 年。

浅羽良昌『日本が支える観光大国アメリカ』昭和堂、2008 年。

浅羽良昌『サービス大国への挑戦——斜陽製造王国のゆくえ』ミネルヴァ書房、2002 年。

ジェームズ・マック、瀧口治・藤井大司郎訳『観光経済学入門』日本評論社、2005 年。

アメリカの国際観光

- ジョン・トライブ、大橋昭一・渡辺朗・竹林浩志訳『観光経営戦略』同友館、2007年。
- 浅羽良昌・西川浩平「旅行大国アメリカ」『世界経済評論』第50巻第4号、2006年。
- 浅羽良昌「アメリカ経済と観光産業」『生駒経済論叢』近畿大学、第7巻第1号、2009年。
- 浅羽良昌「国際観光市場の各国比較——その大きさと特徴」『経済研究』大阪府立大学、
第55巻第3号、2009年
- 浅羽良昌「観光産業の国際比較」『世界経済評論』第54巻第2号、2010年。
- 浅羽良昌「アメリカの観光産業」『摂南経済研究』摂南大学、第2巻第1・2号、2012年。